

「センス」

エペソ 4:13~32

～あなたのセンスはどうなっていますか？～

人は言葉で判断しているのは1割ぐらいで大体は態度で判断しています。態度は内側から出てくるものです。だから態度が良いものとなる為に内側が良くならなくてははいけません。センスは感覚という意味です。人は五感で生きているのでありません。20個ぐらいの感覚で生きています。内蔵感覚や平衡感覚など一つの情報で生きているではありません。人間は感覚で生きています。感覚を使っているかいないかです。人間は食べ物を消化したり運転したり凄いことをしているのに、本人は意識せず気付いていない事が沢山あります。私たちはイエス様にあって体の一部一部です。一人でも欠けてはいけません。イエス様の愛によって結び合わされなくてははいけません。一つの体としているために感覚が大切になります。感覚を使わなくてははいけません。誰かの為にとせば、相手の事を考えると思います。自分の事しか考えないと感覚はいらなくなります。私たちは相手がどう見ているか？という事を意識して恥という感覚だけが生きてしまっています。自分を見つめないと感覚がわからなくなってしまう。自分は正しいという自己義が全てを悪くしてしまいます。センスは外見の事ではありません。センスは着飾ることではありません。内側から出るものです。相手からどう見られているか？ではなく相手に自分をどう見せているか？が大切です。

① キリストの知識の上で大人に（ヘブル5：11～14）

今までの経験を土台にして、同じ失敗を繰り返さないようにしなくてははいけません。いつまでも子供のようではなく、イエス様にあって知恵と知識を貰って、硬い食物もきちんと噛み砕いていきましょう。また相手がどう感じるかを知る感覚を持たないといけません。

② モラルセンス（エペソ4：22～32）

モラルセンスとは良心という意味です。神様は私たちに良心を与えてくださいました。良心は相手を傷つけないという事からきています。良心というものによって、相手の事を見ることが出来るようになります。良心は相手に用いる為にあります。

③ ラブセンス（エペソ4：15～16、32）

愛が無いとバランスを崩してしまいます。愛が無いと揺らいでしまいます。イエス様のようにならなくてははいけません。イエス様にあって一つにならなくてははいけません。イエス様が私たちが愛されたように、私たちが愛し合い赦し合っていきましょう。（要約者：渡辺 将宏）